

位置情報を利用したクーポン情報検索支援アプリの検討

日大生産工 (学部) ○石井 里菜
日大生産工 中村 喜宏

1. まえがき

近年、スマートフォン上で店舗情報を検索できるアプリが増加している。しかし、利用者が見たい情報、例えばクーポン情報を見るまでにいくつかキーワードを入力しなければならないといったすぐに知りたい情報が即座に知ることのできない不便さを感じるものがある。本報告では、位置情報を利用した店舗検索を応用したクーポン情報検索支援アプリについて報告する。

2. 従来技術

既存の店舗情報の検索技術として以下のものがある。

2.2 yelp

yelp はユーザーレビューを利用して店舗情報を検索できるサイト¹⁾である。サービスの特徴として検索量の多いキーワードを自動で表示するオートコンプリート機能を装備している点とレストランの名前、カテゴリー、クレジットカードの利用可否といったコンテンツが豊富な点が挙げられる。問題点としては、ユーザーレビューが少ないため信憑性に欠ける点が挙げられる。以下の図1に、yelp のホームページの画面を示す。



図 1. yelp ホームページ画面

2.3 HOT PEPPER

HOT PEPPER はジャンルや予算、クーポンの有無などの条件を組み合わせて検索できるサイト²⁾である。サービスの特徴として全店舗で宴会シーン・プライベートシーンの2種類の店舗ページを用意している点が挙げられる。問題点としては、複数の条件を入力しなくてはならない点と店舗情報がリストで表示されるため現在地からの距離がわかりにくい点が挙げられる。以下の図2に、HOT PEPPER のホームページの画面を示す。



図 2. HOT PEPPER ホームページ画面

2.3 問題点

従来技術の主な問題点は以下にまとめる。

- (1) ユーザーレビューはあっても良いが、少ない場合信憑性に欠ける。
- (2) 複数の条件を入力しなくてはならない。
- (3) 店舗情報がリストで表示されるため現在地からの距離がわかりにくい。

3. 提案方法

3.1 問題点の解決方法

2.3の問題点は以下で解決できるのではないかと考えた。

- (1) ユーザレビューは利用しない。
- (2) 今回はクーポン情報の検索に特化し、アプリを起動すると検索結果画面を表示させる。
- (3) 地図上に現在地と周辺の店舗情報を表示させる。

アプリを起動すると操作しなくとも現在地と周辺のクーポンが利用できる店舗が地図上に表示される。また、店舗の前に立つとその店舗で利用できるクーポン情報が表示される。

3.2 アプリ開発

今回は、3.1の解決方法を利用した iOS 対応アプリの開発を行う。また表示させる地図は Google Map SDK for iOS を利用する。図3にアプリの起動画面のイメージ図を示す。

クーポン情報の取得はリクルート API を利用する。クーポン情報は JSON 方式で取得をし、その店舗情報を地図上にピンで表示させる。



図3. アプリの起動画面のイメージ図

4 実験・評価方法

4.1 実験方法

実験方法は実験協力者にアプリをダウンロードし、街中で使用してもらう。以下の点について操作してもらう。

- (1) 周辺のクーポン情報を表示し、実際に訪問する。
- (2) 従来技術と提案方法で同じことを検索してもらう。

4.2 評価方法

4.1を行ったあとアンケートを行い、評価する。以下についてアンケートを行う。

- (1) 操作性
初めて使う人にとってわかりやすい画面か。
- (2) 効率性
知りたい情報をすぐに知ることができたか。
- (3) 検索時間
知りたい情報をどのくらいの時間で得ることができたか。
- (4) 意外性
既知っている店舗だけでなく初見の店舗などを知ることができたか。

5 おわりに

今回の研究では、従来技術の問題点を解決するクーポン情報検索に特化したアプリの作成を行うことを目的としている。今後操作性・効率性を中心に評価し、より簡単にクーポン情報を検索できるアプリの開発を目指す。

参考文献

- [1] yelp
<http://www.yelp.co.jp/>
[2]HOT PEPPER
<http://www.hotpepper.jp/>